

鳥取大学教育支援・国際交流推進機構 教養教育センター広報アゴラ

No.49
2023.4

アゴラ

新入生歓迎号



《目 次》

学問を楽しみ、自分を見出す大学生活を……………	学長 中島 廣光 ……………	1
目標を高く掲げて学びを始めよう… 理事（教育担当、国際交流担当、基金担当）・副学長	山口 武視 ……………	2
私・私たちの暮らしの場を創造する……………	地域学部教授 村田 周祐 ……………	3
生涯物語の一幕をここで……………	医学部長 景山 誠二 ……………	4
千思万考のすすめ……………	工学部教授 谷本 圭志 ……………	5
教育の挑戦と、農学の挑戦……………	農学部長 明石 欣也 ……………	6
鳥取というフィールドは最高！……………	地域学部地域学科（令和2年度入学）井手 綾花 ……………	7
大学生活を楽しんで！……………	医学部生命科学科（平成31年度入学）大木 ころ ……………	8
為せば成る、為さねば成らぬ何事も… 工学部社会システム土木系学科（平成31年度入学）	山本 雄大 ……………	9
今しかできないことを……………	農学部生命環境農学科（令和2年度入学）湯浅 実夢 ……………	10
新入生の皆さんへエールを！……………	高等教育開発センター准教授 三好 雅之 ……………	11
鳥取大学で学べて良かったこと……………	入学センター教授 森川 修 ……………	12
ようこそ鳥取大学へ！……………	教養教育センター長 小林 昌博 ……………	13
データサイエンスの学習を始めましょう……………	データサイエンス教育センター教授 井上 順子 ……………	15
教員免許取得のススメ……………	教員養成センター准教授 石本 雄真 ……………	16
これからの4年間・6年間の重み……………	キャリアセンター准教授 長尾 博暢 ……………	17
ナン・カテゴリーと出会うための国際交流活動… 国際交流センター教授 チャン・チェオン・ジェン	（留学生紹介コーナー）鳥取での生活は、私の人生で最も輝かしいことの一つ！	18
……………	連合農学研究科（令和4年度入学）メツリ・スリヤンティ・エスエヌ	19
穏やかに健やかに……………	保健管理センター所長 三島香津子 ……………	20
新生活を丸ごと楽しんで……………	学生支援センター長 後藤 知伸 ……………	21



学問を楽しみ、自分を見出す大学生活を

学長 なか しま ひろ みつ
中 島 廣 光

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。鳥取大学を代表して、みなさんの入学を心から歓迎いたします。大学という場で新たな生活を始めるみなさんに、私が最近知った興味深い話を紹介します。

ムカデの意識についての物語が世界各地にあるそうです。例えば、ヒキガエルとムカデの話では、ヒキガエルがムカデに向かって「右の3番目の足を動かした後は、左の何番目の足を動かすのか?」と、質問するとムカデは考え込んで歩けなくなる。また、ムカデを狙っているクモの話では、「どの足から歩くのか?」とクモから質問されて混乱して動けなくなってしまう。このように、意識していないと普通に過ごしていることが、意識することで普通に過ごせなくなることがあります。ムカデは意識することで動けなくなって困ってしまいましたが、人間にとって意識することで立ち止まることは決して悪いことではなく、考えを深めるためにはとても重要なことです。学問の世界にも同様なことが言えます。平日頃は意識していなかった、見逃していた事柄でも、それらが学問の対象になった途端に意識がそこに向かい、日常が止まり、新たな思考が始まります。みなさんが大学に入学して講義を受けると、ある瞬間、日常から離れた非日常が出現することがあります。目に見えない微細な世界、電子・原子などの話や時間を遡った昔の話、世界の経済、遠い宇宙の話は、みなさんにとっては非日常そのものです。立ち止まり、それらを理解し、考えを深めることで視野が広がります。

『エデュケーション 大学は私の人生を変えた』というタラ・ウェストバーが書いた本が最近、話題となりました。著者は米国アイダホ州で7人兄弟の末っ子として生まれ、10代半ばまで学校に通わず、医療機関で診察を受けた経験もなく、父の仕事を手伝いながら育ちました。それがタラにとっては意識しない日常でした。しかし、独学で大学入学資格試験に合格し、17歳で初めて学校に通いはじめ、知識を増やし、思考力を高め、それまで身近に感じられなかった社会への参入も果たします。そのおかげでそれまでの自分の人生が理解でき、自分の家族の状況を認識することができて、自分というものを取り戻し、最終的に歴史学の博士号も取得します。この本が私たちに教えているのは、大学という場で知識を増やし、自分で考える力を鍛えれば、自分や自分の周囲への理解が進み、新たな道ができ、人生が広がるということです。

このように意識して立ち止まり、非日常に浸ることで日常を深くすることができます。鳥取大学の4年間、6年間は、みなさんにとって学問の世界に出会うことで知識が増え、思考力があがり、視野が広がる有意義な時間となることをこころより願っています。また、教職員一同、みなさんを全力でサポートします。



目標を高く掲げて学びを始めよう

理事（教育担当、国際交流担当、基金担当）・副学長

やま ぐち たけ し
山 口 武 視

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。みなさんの入学を心より歓迎いたします。これから、ここ鳥取キャンパスと米子キャンパスで充実した日々を送るために、何ごとにも挑戦する気持ちをもってのぞんで下さい。「がんばる」みなさんを私たち教職員は全力で応援します。

さて、みなさんは高校では「大学に入る」という目標を持っていたと思います。その目標を達成して本学に入学した今、次の目標は何に設定しますか。大学に入学すると、周りの人からお祝いの言葉とともに、おおよそ次の2つの質問を受けると思います。

「なんで鳥取大学に来たの？」と「大学で何したい？」の2つ。

「なんで鳥取大学に来たの？」の質問に対しては、「偏差値が見合う大学がここだったから」、と答える人が多いかもしれません。もちろん、その理由でかまいません。数ある大学の中でよくぞ本学を選んで下さいました。ありがとうございます。「本学に魅力があったから」、という理由で本学に入学されたのであれば、なんと素晴らしいことでしょう（拍手）。まあ、入学した理由なんてどうでもいいと思います。

大事なのは、もうひとつの質問、「大学で何したい？」に対する回答です。これはあなたの未来を問う質問です。これには耳を澄ませて、どんな答えが返ってくるか期待したいところですが、実は明確な答えを持ち合わせていないひが多くいます。周りの友だちが大学に行くから、とか、社会で活躍するためには四年制大学を出ておいたほうがよいと親が言ったから、とか、それほど深く考えずに大学に入学した、という人も少なからずいます。実は白状すると、私もそんな学生のひとりでした。

でも、漫然としてはいけないと、きっとそのうち気づきます。大学では授業の成績がいくら良くても、自分が望む就職先に行けるとは限りません。それはなぜでしょうか。高校までの勉強は、必ず正解があり、正解に導く方法も先生が教えてくれました。試験に出る範囲も限られていました。しかし、大学での学びの中では、正解は一通りではありません。むしろ正解がない場合の方が多くかもしれません。人と違うから間違っている、と考えてはいけません。人と違うことは個性として認めることも、認められることも必要です。そしてなによりも自分から動き出さないと、学び始めないと、何も始まらないということに早く気づきましょう。

自分の目標が何なのかを定めて、その実現に向けて学びを始めましょう。その学びは、なにも机にかじりついて本を読んだり知識を記憶するだけではありません。あなたたちが、より多くの学びができるための設備も環境も人も、この鳥取大学には揃っています。

さあみんな、より多く、より深く学びを得るために理想を高く掲げよう。私たち教職員はあなたたちの知的挑戦の旅にエールを送り続けます。



私・私たちの暮らしの場を創造する

地域学部教授 むら た しゅう すけ 村 田 周 祐

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。教職員一同が、皆さんの入学をこころより歓迎し、共に学ぶことに心を躍らせています。

新入生の皆さんは、ご自身の可能性を拡げていこうと、これからの大学生活に意気込んでおられるでしょう。私たち地域学部は、学生自身が可能性を拡げ、夢を実現していく「お手伝い」をしたいと思っています。その実現のために充実したカリキュラムを用意しています。とくに、地域（生活知）と大学（学術知）の垣根をできるだけ低くし、大学での学びにとどまらず、時代の最前線で活躍する地域で／地域からの学びを可能とする工夫を施しています。

わざわざ「お手伝い」と表現したのは理由があります。それは、あくまでも学びの主体は皆さん、学生自身だということです。可能性や夢というと、光り輝く未来とそこに向う平坦な一本道をイメージされるかもしれませんが、しかし、急勾配の道なき道を一步步進んでいくほかないのが現実です。しかも、気まぐれな世の中は、せつかくあなたが見つけた道を崩壊させたり、曲がりくねらせたりと、手を替え品を替えて邪魔をしてきます。新型コロナ感染拡大の現状がその象徴かもしれません。それでも、主役である学生は、自ら創意工夫し、時には我慢しながら一步步進み、「私の暮らしの場」を創造し続けなくてはなりません。その一步步進み続ける営みのなかで出会う他者・自然・学問と共に、「私たちの暮らしの場」は創られていくのだと思います。その営みこそが、私たち地域学部が考える「地域学」です。

ですから、地域学部では、「私・私たちの暮らしの場」がどのようにつくられているのか、どのようにつくっていくのかについて考えています。私・私たちが共に暮らしていくために必要な「知」ならば、学問の場（大学）で育まれた「学術知」でも、暮らしの場（地域）で育まれてきた「生活知」でも、学べるものはなんでも学んでいこうという姿勢こそが「地域学」の原点です。この眼前の課題と向き合う実践知としての「地域学」は、皆さん、学生ひとりひとりの助けとなり、さらにはこれからの地域を育み続けていくと考えています。

最後に、個人的なお話ですが、村田は2023年3月より在外研究のためガーナ共和国に1年間滞在する予定です。そのため、新入生の皆さんとは、入学時に顔を合わすことは叶いません。ですが、次にお会いするときには、ガーナの農民の方々から学んだことを皆さんにしっかりと伝えられるよう、一生懸命に学んできます。では、鳥取大学での学生時代が、これからの長く短い皆さんの人生に彩りと安心を与える、豊かな出会いの時となることを願って、お祝いの挨拶を終えたいと思います。



生涯物語的一幕をここで

医学部長 ^{かげ} ^{やま} ^{せい} ^じ
景 山 誠 二

鳥取大学医学部新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。憧れに支えられた、努力の結晶だと思えます。その努力の全てに敬意を表しますと共に、心よりお慶び申し上げます。

おそらく皆様は今、過去を回顧し今を感じると同時に、未来に強い思い入れを抱いていることでしょう。人生100年時代に入ったと言われます。この時の長さに比べれば、大学生活は一瞬の様にも見えます。しかし、人生の羅針盤の針の向きを定める場面であり、とても重要な時期であることは確かです。4年あるいは6年の大学生活に、決意はありますか。初めての大学生活、順風満帆ではないでしょう。理想と現実の食い違いに苦しむ時もあると思います。試行錯誤の多さに辟易することもあるでしょう。無為に過ごしたように見える日々が悔やまれて仕方なく思えるかもしれません。全ては、今思い出される私の過去の苦い感覚でもあります。振り返れば、無為に思える時間もまた、その後の糧であったように感じます。まさに、「始めるに、遅い時は無い」のだろうと思います。学生生活の全ての瞬間に、勇気をもって「小さな再出発」を決断して下さい。そして、全ての顛末を皆様の生涯物語的一幕として、ここ鳥取大学医学部を舞台に記述して下さい。この一幕の記述が明瞭であれば、次の幕では、確かに豊かな味わいを楽しませてくれるものと思います。

医療は、予防と治療から成り立ち、医学教育は、その理解と実践を目指します。まず、病気に至る経緯を正常の破綻として理解し、次に予防・治療法による解決策を試行します。予防・治療の方法論は、絶えず進化を続けます。今日救えない命を明日は救えることを考え、あるいは、今日は完治できない患者さんを、明日は不安のない社会生活に戻すことを試みます。これら一連の進化は、「研究」によって達成されます。「医療の実践」と「医療の進化」の両輪を作動させる仲間として、皆様の参加を歓迎します。全ての仕事は「価値の創造」と「課題の解決」に大別されるでしょう。それぞれのキーワードは、芸術家による生きる素晴らしさの演出や、医療者が患者を社会復帰に導く事柄をイメージさせます。これまでの医療は、「課題の解決」で手一杯でした。新たな医療のデザインには、「価値の創造」が加わることを期待します。後手に回った医療ではなく、誕生から死まで健康的な人生を医療が演出する。新たな価値が創造される未来を待ち遠しく思います。その担い手が「あなた」です。今日もまた、ここで「あなた」の生涯物語を書き続けて下さい。鳥取大学医学部は、生涯物語を書き続ける「あなた」の発想を、必ず豊かに広げます。



千思万考のすすめ

工学部教授 ^{たに}谷 ^{もと}本 ^{けい}圭 ^し志

入学、おめでとうございます。これからは、高校生まで慣れ親しんできた日々の生活の仕方やリズムが大きく変わります。しかし、大学での生活がどのようなものか分かりようがありませんので、期待よりも不安が大きいと思います。私自身がまさにそのような気持ちでこの時期を迎えたのを昨日のように覚えています。それでも大丈夫です。同じ境遇の学生が全国に何万といて、同じ境遇を味わった先輩（私を含む）がさらに無数にいます。今は一日一日が長く感じるかもしれませんが、気が付けば新たな生活に慣れ、その後はあっという間に2年生、卒業の日を迎えます。私たち教職員もしっかりサポートします。

これまでに多くの1年生と接してきました。その経験から思うことがあります。多くの皆さんにも該当するかもしれません。受験期という多忙な時期はもう終わりました。歩みを緩めて、以下を考えてみてください。

1. 自分のしたいことをもう一度よく考えてみよう

皆さんには自分のしたいことがあり、それに即して進路を選んでいるはずですが、なので、「もう考える必要はない」と思うかもしれません。しかし、受験というプレッシャーの中で大学に合格するという暗黙のフィルターが入った上での「したいこと」の可能性があります。また、何が勉強できるかを調べて進路を選んだとしても、「社会に出て何をしたいか」という今後の人生にとって最も大事な視点が薄かった可能性もあります。何より、働いた経験なしにどのような社会人になりたいかなど、分かる訳がなくて当然です。どのような職業、職種、仕事があるかを大学の教職員はよく知っており、社会人との接触の機会も豊富です。ぜひそのような生の情報に触れてください。恐らく、皆さんが知っていることは僅かであり、誤解も多いはずですが、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」と言いますが、聞くは恥でも何でもありません。皆さんは「無知の知」を持っていますか？

2. 自分が進もうとする分野の将来を見据えてみよう

自分のしたいことに向かって猪突猛進というのは恰好がよさそうですが、成人の判断としては未熟です。将来の自分に怒られないために、今一つ考えなければならないことがあります。自分が進もうとしている分野の未来です。私が学生のときは、このことを真剣に考える必要がありませんでしたが、今はそうはいきません。人工知能などの先端的な技術の登場、コロナウィルス感染症というパンデミックの経験は、歴史が証明しているように社会に大転換をもたらします。あなたが進む分野の未来は明るいのですか？何を学ぶと明るくなりそうですか？就職活動をする時期に考え始めても遅いです。授業で習う学問は過去の産物ですが、研究は未来を創る活動です。研究にも目を向けてみて下さい。不都合な真実にも向き合いましょう。将来を論じている良書もたくさんありますよ。



教育の挑戦と、農学の挑戦

農学部長 あかし けんや 明 石 欣 也

新入生の皆さん、鳥取大学へようこそ。鳥取大学農学部の教職員一同、そして先輩学生一同を代表して、皆さんが仲間に加わることを歓迎します。皆さんの学生生活が充実するよう、期待しています。

大学生活は、これまでの高校等での生活とは質が大きく異なることを、皆さんはこれから実感していくことになるでしょう。例えば大学生活では講義のない時間帯が多くありますが、これらの時間は学修内容を自主的に深掘りする時間であり、学生間で自発的な交流を深める時間でもあります。人生の中で、物事に自由に打ち込める時期というのはそう多くはありません。ぜひ、物事に打ち込む楽しみを、学生生活の中で経験していただきたく、皆さんに以下の言葉を紹介したく思います。

“I believe there is no more powerful way to make the world a better place than through education.”

（世界をより良い場所にするために、教育ほど力強い方法はない）とは、世界銀行の副総裁などを歴任し、今年から米国コロンビア大学の学長に就任するネマト・シャフィク博士の言葉です。エジプト出身の彼女は、4歳の時に国内の動乱により生活の基盤を失い、一家で米国に移住します。教育熱心であった父親の、“They can take everything away from you except your education.”（彼らは貴方からすべてを奪えるかもしれないが、教育だけは奪うことはできない）という教えのもと、大好きな読書等を通して世界を知る学修を深めていった彼女は、開発政策や環境問題などの多様な問題において、世界のリーダーの道を歩むこととなります（彼女の力強い言葉は、YouTubeで“Meet Columbia University's Next President, Minouche Shafik”と検索すると動画視聴できますので、ぜひご覧あれ）。若い時に身に付けた教養は、一生の宝物になり得ます。これからの鳥取での学生生活において、皆さん一人一人が、教養という宝物を心の中に築き、今後の人生を生きる上での道標としていけるよう、期待しています。

“There are no miracles in agricultural production.”（農業生産には奇蹟はない）とは、1970年にノーベル平和賞を受賞したノーマン・ボーローグ博士が、その受賞講演で述べた言葉です。大量交配やシャトル育種、矮性（わいせい）形質導入などの画期的で体系的な技術開発を通して、後に「緑の革命」と呼ばれ、数億人を餓死から救ったとされる食糧増産の立役者となったボーローグ博士ですが、その業績は多様な技術領域の知見の組み合わせと、構想力と、情熱と、多くの人々の不屈の努力の賜物（たまもの）であり「奇蹟」ではない、という思いが上の言葉に込められている様に思います。この農学の例に限らず、世界の様々な産業は、長年の研究と試行錯誤により培われた「知と実践」の積み重ねから成り立っているということを、これからの大学生活の中で学んでいって欲しいと願っています。

鳥取大学農学部は、前身の鳥取高等農業学校から数えると創立百年を超える農学の名門です。砂丘・乾燥地、鳥由来感染症、果樹、菌類など、様々な分野で達成された学術成果は我々の社会の様々な局面で活用され、また多分野での新しい挑戦が現在も進められています。これらの詳細について、これからの講義や語らいの中で共有しつつ、新たな挑戦に皆さんと共に立ち向かうことを楽しみにしています。



鳥取というフィールドは最高！

地域学部地域学科（令和2年度入学） 井 手 綾 花

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます！ようこそ、鳥取大学へ。佐賀県唐津市出身の井手綾花です。無事大学に合格でき、ほっとしている方、新生活がはじまって少しナーバスになっている方、とても気持ちがわかります。私も3年前そうでした。

でも、安心してください！鳥取での学生生活は最高に楽しいです！！

みなさんもご存知の通り、鳥取県は人口が一番少ない県です。これは欠点や課題であると捉えられがちですが、鳥取での生活を通して、むしろ、ラッキーなことだと感じています。なぜなら、人が少ない＝ライバルが少ない、つまり、何事にも挑戦しやすい環境なんです。そして、鳥取は大学生の挑戦に大学や行政、地域住民の方など多くの方が協力してくれます。

実際、私は、誰もが楽しく地域に貢献できて、色んな人の想いを込められるものはないかと考え続けていました。そんな時、フィールドワークで東北を訪問した際に、地酒の魅力に気づきました。鳥取を離れても“地酒”を通して“鳥取を思い出してほしい”という想いから、地酒の魅力を知ってもらい、発信する学生団体「とっとりおさけプロジェクト」を仲間と一緒に立ち上げました。大学側のサポートもあり、県内の酒蔵を巡るバスツアーや酒造り中の酒蔵の見学、県内の地酒を集めた試飲会を自分たちで企画し、開催しました。さらに、県内の活動だけでなく、授業で出会った方と東京・恵比寿で、鳥取の食を楽しんでもらうイベント「えびとり祭」を開催することになりました！これは、鳥取県のお酒と食のペアリングを楽しんでもらうイベントで、ずっとやってみたいと思っていた夢でした。大学の授業で学んだことをベースに、自分の好きなこと、わくわくすることを探求し、仲間と協働しながら挑戦し続けていたら、夢へと繋がりました。

みなさんには、ぜひ、鳥取大学で多くの知識を得ながら、鳥取というフィールド、鳥取にある資源を最大限活かして、やってみたいことにたくさん挑戦してほしいです。それを実現するには、好きなこと、やってみたいことを人に話してみることと思いついたら半歩踏み出してみることをおすすめします。もしその挑戦に失敗しても“自分の経験”となり、成長するための糧になるでしょう。鳥取は多くの魅力が何気ない日常に溢れていて、活かし次第で最高に面白いフィールドになります！そして、鳥取はみなさんの価値観を変えてくれると思います。変わるといことは、学びを得たということです。鳥取でたくさん学んで、鳥取は最高だと思えるキャンパスライフを送ってください。みなさんの活躍を期待しています！



画像：えびとり祭のロゴ
(地域創造コース3年 與倉千花さん作成)



大学生活を楽しんで！

医学部生命科学科（平成31年度入学） ^{おお} ^き 大 木 ころろ

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大学生活への大きな期待とともに、「一人暮らし初めてだなあ」、「友達できるかなあ」、「1限寝坊しないかなあ」など多くの不安を抱えていることでしょう。ここでは、そんなみなさんが、大学卒業時に「有意義な時間を過ごせた！」と思ってもらえるように、大学生活を送るうえで心の片隅に留めておいてほしいことをお伝えしようと思います。

①楽しい！興味深い！と思ったことを大切にす

部活動やサークル活動、趣味など、楽しい、面白いと思うことに、思う存分時間を使ってみてください。私は管弦楽団に所属し、大好きなバイオリンを心ゆくまで弾いてきました。技術の上達や人との関わりなど、ポジティブなことをたくさん得ることができました。忙しいときでも管弦楽団の活動は良い気分転換になり、心の余裕を引き出してくれました。そして何より、目標を決めてそれに向かって打ち込んだ経験は、いつか自信となり、誇りに思えるようになると思います。

もちろん、学業においても同じです。講義を受ける中で、新しい学びを得たり、疑問が生じたりすると思います。それらのことを、講義が終わってから教科書・論文を読んだり、先生や友人に質問したり、様々な手段を用いて深く学んでみてください。知識の幅が広がるだけでなく、考えることの楽しさに気づいたり、より興味深い事象にたどり着いたり、自分の中の世界がどんどん広がっていくワクワク感に出会えると思います。もしかしたら、それが自分の人生を変える大きな転機となるかもしれません。

②健康が一番大事

アルバイトや部活動にかまけて、ついつい健康に気を配るのを忘れがちになってしまいます。多くの方が初めての一人暮らしを経験することになると思います。これまでは保護者の方が準備してくださっていたバランスの良い食事、これからは自分で準備しなければなりません。忙しくても、なるべく食事を抜かないこと、栄養バランスに気をつけることを心がけてほしいなと思います。適切な睡眠時間の確保も忘れないようにしましょう。

また、鳥取は雨や雪が続き、空がどんよりしていることが多く、気分が落ち込んでしまうこともあります。そのようなときに元気が出る方法を見つけておくことをおすすめします。

どれだけ健康に気を配っていても、体調が悪くなることはあります。もしもの時に助けてくれる友人がいると安心です。

最後になりますが、みなさんの大学生活が実り多いものになることを、心から願っています。



為せば成る、為さねば成らぬ何事も

工学部社会システム土木系学科（平成31年度入学）

やま もと たけ ひろ
山 本 雄 大

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。鳥取によう来んさいました。鳥取大学の在學生として皆さんを歓迎します。

鳥取にはあまり娯楽はありませんが、美味しいものが豊富にあります、白バラ牛乳やとうふちくわなどの加工食品、新甘泉（しんかんせん）、早優利（さゆり）など鳥取大学開発で鳥取県内生産の梨類、猛者えびや、カレイ、紅ズワイガニなどの海産物など、鳥取でしか味わえない物が豊富にあります。せっかく縁あって鳥取にいらしたのですから、是非4年間の内に味わってください。

大学生になると高校生までと大きく異なることがあります。それは、自ら挑戦して、自分の大学生活を自分で決めていかないといけないということです。高校では、決まった席で授業を受け、部活をし、体育大会などのイベントがあり…何も自分から挑戦しなくてもある程度の高校生活は送れたと思います。これは、高校の先生方が高校生活を皆さんが楽しく過ごせるようにルールを敷いて下さっていたから可能だったことです。しかし、大学では、先生方はそこまで助けてくれません。（もちろん相談に行けば、親身になって乗ってくださいますよ！）講義を自分で登録しなければならないだけでなく、サークル、アルバイト、留学、地域交流など、全てあなた自身で門戸を叩く必要があります。そこで皆さんには、興味を持てば、話だけでも聞きに行っていたいただきたいです。特に4月はサークルの新入生歓迎会や留学説明会などが多く開催されています。面倒くさいという気持ちを一旦追いやって、行動してみてください。

「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」

私が鳥取大学に入学して、モットーにしてきた言葉です。この歌は、江戸時代の名君、第9代米沢藩主の上杉鷹山の有名な歌です。何事もやってみれば出来るものであり、出来ないのはやろうとしないからであるという意味です。私は短期留学でマレーシアへ、地方創生政策体験学習という選択授業で、地方が抱える課題を分析し、解決策について副町長へプレゼンテーションを行う、所属していたサークル3つ全てで幹部を務める、鳥取県内の地方自治体に会計年度任用職員として勤める、資格取得、地域住民とのワークショップなど様々なことにチャレンジしました。どの経験も、高校生では経験したことがないような様々な苦悩がありましたが、身につけた経験や見識、知識は思いがけないタイミングで役立つもので、結果的にやっていて良かったと思っています。

大学生活は多くの時間を自由に使うことができる人生で最後の機会です。この貴重な4年間は是非、有効活用してください。



今しかできないことを

農学部生命環境農学科（令和2年度入学）

湯 浅 実 夢

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから始まる大学生活、新しい出会いや経験をととても楽しみにしている人もいれば、慣れない土地での初めての一人暮らしに不安を感じている人もいるかと思います。そんな皆さんのこれからに少しでも役立てばいいなと思い、私から伝えたいことをお話します。

私が皆さんに一番伝えたいことは、いろいろなことに興味を持って挑戦してほしいということです。大学生活は、これまでの中学生や高校生のころと比べてとても自由です。好きに使える時間も増えますし、アルバイトをすれば自由に使えるお金も増えます。ですが、それは自分から動いていかなければならない、ということでもあります。なので、今しかできないことをぜひ見つけて挑戦してみてください。例えば、今までしたことなかったスポーツや楽器を始めてみたり、たくさん本を読んでみたり、いろんな所に旅行に行ってみたり、好きなことを極めてみたり、興味のあることについてとことん勉強してみたり。とにかくいろんなことを経験してみたいです。その過程で、新たな出会いや新しい価値観に巡り合うかもしれません。何から始めればいいのかわからない時は、まずは気になるサークルや部活に入ってみることをお勧めします。そこにはアドバイスをくれる先輩もいますし、何より友達もたくさんできます。サークルや部活は複数入ることができるので、ぜひ入部してみてください。サークルや部活での活動やそこでできた友達は、大学生活をさらに充実させてくれるはずです。

そしてもう一つは、自由な時間を大切にすると同時に、大学での学びにも積極的に取り組んでほしいということです。皆さんの多くは、自分が興味のある学部へ入学していると思います。1年生の時は全学部共通の教養科目が多いですが、学年が上がるにつれてほとんどの授業が専門科目となります。これまでとは違い、大学では細かく分かれた様々な分野の先生から専門性の高い授業を受けることができるので、ここでしか学べないことを積極的に学んでほしいです。また、このように講義室にみんなが集まってノートを取りながら授業を聞く、ということは人生で大学が最後だと思います。同じ興味を持つ友達と一緒に勉強できる楽しさを大切にしてほしいです。

大学生活は想像以上にあつという間です。今しかできないことをたくさん見つけて挑戦して、そして人との出会いを大切にしながら過ごしてください。皆さんの大学生活が充実したものとなることを願っています。



新入生の皆さんへエールを！

高等教育開発センター准教授 み よし まさ ゆき
三 好 雅 之

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから始まる大学生活、友人達と共に多くの学びや大学生の時にしかできない経験を想像して胸を躍らせているかと思います。私たち教職員も皆さんのご入学を心から歓迎します。ここでは、皆さんが大学生活を始めるにあたり、皆さんへエールを送らせていただきます。

鳥取大学は、「知と実践の融合」を理念として、全学共通教育や各分野の専門教育に力を入れており、皆さんの成長の手助けをします。また、皆さんのこれからの学生生活では、サークル活動、ボランティア活動、自然体験活動など、授業以外の活動からも人間として大きく成長する機会があるでしょう。鳥取大学のある鳥取県には日本海や大山をはじめとした多くの自然や文化があります。美味しい食事も多くあります。鳥取大学でしっかり学修する一方で、大学内に留まらず鳥取県内の様々な自然や文化、人と触れて、社会の問題発見や課題解決について知識をもって考え、学生の時からできる行動をしてみてください。都市部では味わえない鳥取というフィールドが皆さんの成長を支える大きな学修環境となってくれるでしょう。

私たち高等教育開発センターは、全学部学生を対象として、皆さんが成長を実感しながら達成感と満足感をもって社会へ羽ばたくことができるよう、教育の質保証における確認や改善、学びの需要に応える教育提供やデジタルを活用した学修環境整備等を進めています。具体的な例として、本学ではeポートフォリオの運用を進めています。授業や学外の学修フィールドで学んだ内容を記録、整理して自らの強みを把握し、自己アピールをするためのポートフォリオを全員に作成してもらいます。卒業時には、入学時からの学びの全てがこのポートフォリオに保管され、あなたの鏡となり学修成果を映し出してくれることでしょう。是非、これからの学生生活で多くの学修体験、経験を通して皆さん自身と共にポートフォリオを成長させてください。

最後に、大学生活の主人公はあなたです。与えられた学びの中で生活するのではなく、あなた自身が鳥取大学や鳥取県全体から学びを掴み取って最後まで学びきってください。皆さんの大学生活が豊かな人生の1ページとなることを願っています。



鳥取大学で学べて良かったこと

入学センター教授

もり
森 かわ
川

おさむ
修

みなさん、ご入学おめでとうございます。そして、ようこそ鳥取大学へ！

37年前にみなさんと同じく鳥取大学へ入学した先輩からのメッセージです。今、この文章を読んでいるみなさんと同じ頃（4月上旬）は、初めてのひとり暮らしで家事ができるか、友達ができるか、勉強に付いていけるかなど、不安が多かったこと、入学式が小雨の降る中の第1体育館で行われたことなどが思い出されます。いろいろあった不安は1か月もすると解消され、早速できた友達と他愛もないことで夜遅くまで語り合ったこともありました。また、初めてのアルバイト先だった郵便局での仕分け作業では、仕事のやり方が分からず、郵便局の職員さんに指導していただき、仕事の大変さとお金の大切さを感じることができました。このように学生生活では、勉強や研究以外の学びもありました。

鳥取大学には大学院修士課程を含めて6年間在学しました。勉強や研究以外にもっとも鳥取大学で学べて良かったと思うことは、多様性（ダイバーシティ）についての理解だと思えます。それは、大学在学中や大学院を修了した時ではなく、会社に就職してから、また、大学の教員になってから認識できたように思います。

鳥取大学の特徴として、地元占有率の低さがあります。37年前の1986年、鳥取大学の鳥取県内高校出身者は入学者全体の約1/3（319/933）でしたが、現在ではさらに少なく、2022年度入学生では約1/6（186/1,171）です。このように、鳥取大学の学生にはさまざまな地域の出身者がいて、育った環境の異なる多くの人たちと触れ合うことができます。例えば、言葉の違い（じゃんけんの掛け声は何？）、料理の味付け（鳥取のお雑煮を知ったときは大変驚きました！）など、ずっと同じ地域に住んでいると気付けないことがあります。友達と話していると、人によって考え方が異なること、自分が当たり前と思ったことでも相手にとっては異質なことと思われることがあります。さらに、大学生になると、アルバイト先などで幅広い年代の方とも付き合うことになります。これらの異なる考えをいきなり否定すると人間関係に悪影響を及ぼすこともあるでしょう。まったく違う意見を排除したり、受け入れることができなくても、一旦、相手の考えや意見を受け止める、相手の立場に立って理解したり、認めたりすることを自然と学んだように、後で振り変えると思います。

近年、「多様性」や「ダイバーシティ」といった言葉をよく耳にするようになりました。これらを学ぶことができる最適な場所が鳥取大学かも知れません。大学内で学ぶ勉強や研究の他、部活動、サークル活動、ボランティア活動、地域活動、アルバイトなどの学びがあります。それらを体験し、充実した大学生活を送れることを期待しています。



ようこそ鳥取大学へ！

教養教育センター長 こばやし 小林 昌博 まさひろ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。教養教育センターからのご挨拶と、センターの紹介をしたいと思います。

皆さんは、入学後すぐに「全学共通科目」と呼ばれる科目（授業）を受講することになります。この他にも「専門科目」と呼ばれる科目も受講しますが、こちらは皆さんが所属する学部で開講されている科目で、学部にも所属する先生が担当されます。教養教育センターは、前者の全学共通科目を担当する大学の部署です。この全学共通科目ですが「入門科目」、「教養科目」、「外国語科目」、「健康スポーツ科目」という4つの科目群に分かれており、「教養科目」はさらに「基幹科目」、「主題科目」などに、また「外国語科目」は英語、および初修外国語と呼ばれるドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、スペイン語（学部によってはロシア語も）からなる科目群に分かれています。教養教育センターに所属する教員は主に、基幹科目と外国語科目を担当しています。

教養教育センターは共通教育部門、外国語部門、健康スポーツ部門の3つの部門から成っており、専任教員と他のセンターの兼務教員で構成されています。それでは教養教育センターの各部門からのメッセージに続きます。

充実した大学生活を！

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

いよいよキャンパスライフが始まりましたね。クラブやサークル、アルバイトやボランティア活動など、これから何をしようかと期待を膨らませていることでしょう。とくに、1～2年生の間は、比較的自由に動けますので、ひとつひとつの出会いや経験を大切に、自分を成長させる機会にしてください。

この1～2年生の時期に集中して履修するのが、教養科目です。教養科目では、視野を広げ、深く考える態度を養うために、理系・文系を問わず、学問の基礎となるような知識や技能を幅広く修得することができます。教養科目を通じて、学ぶことの楽しさ、奥深さを実感するとともに、自ら課題を見つけ、取り組む姿勢を身につけていただければと思います。

大学生でいられるのはあつという間です。ですが、この短い時間は、人生において貴重なものとなるはずで。一日一日を大切に、充実した大学生活をお過ごしください。

共通教育部門：田鍋 良臣（高等教育開発センター准教授）

自分の世界を広げるためのツール

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

これまでとは大きく異なる大学という新たな環境に飛び込んで、期待や不安を胸に抱いていることでしょう。しかし、皆さんがこれから活躍するフィールドは鳥取大学や日本という範囲に留まるわけではなく、グローバル化が進む現代社会においてはまさに「世界規模」の視野が求められています。教養教育センターで開講している多様な分野の授業は、皆さんの幅広い知識の蓄積に貢献しますが、中でも外国語科目を履修し、それを自分のものとして使えるようになると、視界が「世界的」に広がることにつながります。

大学では皆さんがこれまで勉強してきた英語に加えて、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、スペイン語、ロシア語といった初めて学ぶ言語の授業も受講することになります。特に初修外国語の習得には地道な努力が求められ、時に投げ出したくなることもあるかも知れません。しかし、英語に加えてもうひとつの外国語を学ぶことは、これまでほとんど接点がなかった世界各地で暮らす人々の文化や社会のあり方などに直接触れる機会を格段に増やし、皆さんの知的な世界を広げ、人生をよりカラフルで豊かにすることにつながるでしょう。外国語の学習を通して、そんなツールを手に入れてみませんか。

外国語部門：箕輪 茂（教養教育センター准教授）

楽しく体を動かしましょう

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんに関連のある科目としては、全学共通科目の健康スポーツ科目（運動・スポーツ文化に親しむ中で、健康科学に対する知見を広げると共に、身につけた技能や知識を活かして生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための能力を養う科目）や主題科目の「健康と生命」（社会生活を営む人間の心身・健康と人類を含めた生命の不思議について、広く医学的・精神的・社会的な観点から学ぶ科目）などがあります。色々開講されていますので、ぜひ興味があるものを受講してください。

ところで皆さん運動していますか。部活動やサークル活動に参加するだけでなく、部屋の中でストレッチングやトレーニングを行うこともできます。運動習慣の無い方は、まず座位時間を減らすことから始めてみてはいかがでしょうか。

健康スポーツ部門では、安心して授業が受けられる環境づくりに取り組んでいます。健康スポーツ科学実技の授業で楽しく体を動かしましょう。教員一同、皆さんが健康で充実した大学生活が過ごせるよう祈念しております。

健康スポーツ部門：西村 正広（医学部講師）



データサイエンスの学習を始めましょう

データサイエンス教育センター教授 いの井 うえ上 じゅん順 こ子

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。データサイエンス教育センターの教員として、心よりお祝い申し上げます。当センターでは数理・データサイエンス及びAI教育に係る企画・実施・開発等に関連する業務を担当していますが、ここでは皆さんが1年生で教養として学ぶデータサイエンスについて簡単に説明いたします。

近年、「ビッグデータ」、「AI（人工知能）」や「IoT」に関する話題を多く聞くようになりましたが、皆さんはこれらの言葉からどんなことを連想するでしょうか。人間の代わりに情報を収集して仕事してくれる様々な機械（ロボット掃除機などの高機能な家電を身近な例として思いつく人もいるかもしれません）でしょうか。あるいは将棋や囲碁の対局の人工知能による分析、インターネット上の広告等に活用される情報技術、といった話題などを思い浮かべる人もいるかと思います。これらはデジタル技術の活用例の一部ですが、このように大量、かつ多様なデータから有用な知見を引き出し活用する技術は、現実の問題に取り組む際の基本的な方法・手段としてますます重要になっています。そして、その応用分野は「人」や「社会」に関する問題など広範囲にわたっています。この観点から、これからの社会で活躍する人々には、「文系」、「理系」を問わず、データサイエンスの素養が必要とされています。

鳥取大学では、全学共通科目「情報リテラシ」と「データサイエンス入門」を合わせて「データサイエンス教育プログラム」を実施しています。このうち「データサイエンス入門」では、全ての大学生が身につけておくべきリテラシーとしてのデータサイエンスを解説します。具体的には

- ・データサイエンスとはどんなものか、またデータサイエンスが社会で重要視される背景は何か、
- ・様々な業界において、実際にデータ・AIがどのように利活用されているか、地域における活用事例にはどんなものがあるか、
- ・代表的なデータサイエンスの技術とその利点・欠点についての解説、
- ・データを読み解き、説明し、扱うための基本的な思考方法や留意事項、

などを取り上げます。詳しくはシラバスをご参照ください。本科目は1年生の第2クォーターで開講される必修の全学共通科目です。授業はオンデマンド形式のeラーニングで実施しますので、必要に応じて繰り返し視聴できます。この利点を生かし教材を大いに活用して積極的に学習してください。

「データサイエンス入門」に続いてさらに学習を進めたい人のために、全学共通科目では「データ科学の基礎」を後期に開設しています。実際にデータを分析し、データから価値を引き出すためには、コンピュータ、数学・統計学の知識等が必要となります。このことを踏まえて「データ科学の基礎」ではデータ科学の数理として重要な、統計学的考え方および統計学的手法の基礎の修得を目指します。皆さんの積極的な受講を期待しています。



教員免許取得のススメ

教員養成センター准教授 ^{いし}石 ^{もと}本 ^{ゆう}雄 ^ま真

鳥取大学ではどの学部でも教員免許（幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等で教員をするための資格）を取得することができます（医学部を除く。ただし、医学部でも教員資格認定試験を受験することで取得は可能です／学部学科コースによって取得できる免許の種類は異なります）。そこで、以下の3つの理由から教員免許の取得をお勧めいたします。①教員という職に就くため、②自分の人生に活かすため、③日本の社会を学ぶため。①の理由だけではなく、どの理由で教員免許の取得を目指しても構いません。

一つずつ説明したいと思います。①教員という職に就くため。昨今では教員という仕事はブラックだと広く言われるようになりました。労働時間が長く、割に合わない仕事であると思われています。確かにそれを完全に否定することは難しいのですが、改善に向かって進んでいることもまた事実です。また、現在日本の教育は大きな変革の時期にあります。教員の働き方だけではなく、学校のあり方や教育の内容も大きく変わりつつあります。国が学校で教える内容を規定している学習指導要領の改訂や、児童生徒への支援や指導のあり方を規定している生徒指導提要の改定もありました。このような大きな変革の時期に教員として勤めることは刺激的で面白いものとなるでしょう。加えて、子どもたちと接するという魅力もやはり大きなポイントです。子どもたちはほんのわずかな期間でも大きな成長を見せます。子どもたちはみな周囲の環境、働きかけに対してまっすぐに反応を返します。これらは大人を相手に仕事をするには代えがたい魅力となるでしょう。

②自分の人生に活かすため。教員免許取得のための教職課程では多くのことを学びます。人間の成長・発達、人間の行動の特徴、物事の教え方、モチベーションの高め方など。これは教員にならなかったとしても、働くうえで、子育てや介護の場面で、人付き合いの中で活かせるものばかりです。卒業してからこれらを学ぼうと思えば、高額な料金がかかることも少なくありません。

③日本の社会を学ぶため。教育にはさまざまな社会の課題が反映されます。貧困、虐待、障害、多様性の受容、地域格差…。これらについても、教職課程では学んでいきます。つまり日本の社会を学ぶことになります。社会の課題に対しては、教育だけではなく福祉や医療、行政、民間企業などさまざまな立場の者が解決に向けて取り組んでいます。このため、これらの学びはどのような分野で働くとしても、必ず役に立つものとなるでしょう。

近年サブスクリプション（サブスク）型のサービス（定額を払えば聞き放題、読み放題など）が多くなってきています。大学はもともとサブスクです。定額履修し放題（上限はありますが）、定額施設利用し放題です。活用しないともったいないといえます。上の話が少しでも気になった方は教員免許取得も目指してみてもいいのではないでしょうか。教職課程でお待ちしております。



これからの4年間・6年間の重み

キャリアセンター准教授 ^{なが}長 ^お尾 ^{ひろ}博 ^{のぶ}暢

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。私は、「キャリア入門」（農学部生命環境農学科は「キャリア入門Ⅰ」という、鳥大（とりだい）の1年生が前期に履修する科目を担当している教員です。どうぞよろしくお願ひします。

さて、その「キャリア入門」という科目について、簡単に説明します。この科目は、鳥大で充実した学生生活を送ることが今後のキャリア形成にとって最も確かな基盤になるという考えを核にしながら、学生一人ひとりが自らの生き方・働き方について理解と関心を深め、将来を視野に入れた目的意識に根ざした学生生活を実現していくことを目標としています。つまり《充実した学生生活への動機づけ》がこの科目の、そして1年前期のうちにみなさんに履修してもらうことの、ねらいです。特に鳥取地区の授業では、「キャリア」に関する具体的な知識や情報を授業担当者が提供するだけでなく、毎回の授業で得た気づきや学びを学生生活内の他の領域（学部専門科目、サークル活動、アルバイト、ボランティア活動、インターンシップ、資格取得、等）に波及させるために、自らが取り組む課題や目標を設定し、その後の具体的な成果や進捗^{しんちよく}状況を報告してもらう活動も授業に組み込んでいます。

もちろん、いまだ続く「コロナ禍」の影響で、学生生活がどのようなものになるのか、不安は尽きないと思います。確かに入学後まだしばらくは、「かつての日常」とは異なる状況が続くかもしれません。だからこそ、この時代を生きる私たちは、むしろそれらを所与のものとして「いまできること」を見つけ、「未来への糧」を蓄えていくことがとても大切です。これから始まる4年間ないしは6年間に向けて、「キャリア入門」を通じた学びや気づきの中から、学生生活をより充実したものにする手がかりをつかんでください。

また、新入生のみなさんには、これからの数年間を「鳥取」で過ごすことの人生における意義を、学生生活を通じて最大限高めてほしいと思います。なかでも、住み慣れた場所を離れて鳥取で暮らし始めた人のほうが多数派でしょうが、その人たちはぜひ、これから数年間にわたり人生にとってかけがえのない時代の舞台となる鳥取を、新たな“地元”としてとらえ、この地に強く・深く・広く、時には鋭く、目を向けてください。そして、鳥取から吸収できること、逆に鳥取に何かできることを考えてほしいと思います。現に、鳥取県以外から入学した鳥大生の先輩が、鳥取を舞台に精力的に活動しているという事例は数知れず、本当に頼もしい限りです。いっぽう県内から進学した人には、慣れ親しんだ“地元”を単にこれまでの延長線上としてとらえず、他地域から来た人の見方を知り、あるいは自ら他地域や世界に身を置くことを通じて、ぜひ鳥取での学生生活に、高校までとは異なるあなたなりの格別の意味をもたせてくれることを期待します。

気づけば紙幅もあとわずか。それでは4月からの「キャリア入門」で会いましょう！



ナン・カテゴリーと出会うための 国際交流活動

国際交流センター教授 チャン・チェオン・ジェン

皆さん、ご入学おめでとうございます。大学とは、多角的に知の刺激を与えるようになっている一つの「学習環境」です。一般社会では経験できない知的環境が大学にはあります。その中で何よりも「人的環境」が貴重です。大学に入る価値とはいろいろな人に会い、話や質問をすることができる環境に身をおくことだと言えます。

そのような人的環境づくりの一環として国際交流センターは貴重な場所です。国際交流センターでは、外国人留学生の受け入れ、日本人学生の海外派遣、キャンパス内の国際交流、地域での国際交流、海外の大学との協定やパートナーシップなどに取り組んでいます。これらはすべて、皆さんが将来、海外の国々の人が共通に持っている国際感覚に遅れを取らないように、世界と対等に、そしてスムーズにつながるための教育支援としてあるわけです。

鳥取大学には約28カ国から来た約160名の外国人留学生がいます。気候、地理環境、言語文化、経済発展など、さまざまな背景を持つ留学生たちの存在に目を向けると、実は大学はそれ自体が、まるでミニ国連のような環境となっています。

皆さんは、今までの学校生活や故郷から離れて大学生活という新しい環境に慣れていかなければなりません。外国人留学生たちは日本の社会に適応するために、その何倍もの努力をしなければなりません。「日本」の社会システムは世界の目から見るとどれほど特異なものか、留学生に聞いてみてください。留学生と接すると、この世界は一つの社会システムからできているわけではないことがよくわかるはずです。

国際交流センターでは、皆さんが留学生の存在を感じることができるよう、キャンパス生活の多様化を推進しています。たとえば、学生団体「G-frenz（ジーフrenz）」は学生が主体的に国際交流を展開するプラットフォームです。留学生と気軽に接する機会として、留学生の日本語授業をサポートする「日本語パートナー制度」や授業外で留学生とペアで交流する「日本語パートナーシップ制度」もあります。これ以外にも、留学生とつながる活動として、「日本語カフェ」、「英語カフェ」、「中国語カフェ」などがあります。

国際交流とは何もそれ自体が目的ではなく、それを通して得た気付きこそ人生において得難いものです。人間は生まれ育った環境と違う物事に出会うとき、「ナン・カテゴリー」という、いわば「理解不可能」な状態に入ります。我々は「ナン・カテゴリー」に戸惑い、それを受け入れるように適応していくことで世界の多様化を体得する事になるわけです。

本センターが実施しているマレーシア、メキシコ、ウガンダ、台湾への短期留学プログラムは、誰でもできる異文化体験のチャンスです。交換留学、研究留学など長期留学プログラムについても国際交流センターでは計画、応募、資金、実施に至るまで相談に応じています。

環境が人間を作っていきます。皆さんは、大学時代に複数の「環境」を体験することで大きく成長します。どうぞ、自分のためにも、日本のためにも、ぜひ国際交流センターを活用してください。



鳥取での生活は、 私の人生で最も輝かしいことの一つ！

連合農学研究科（令和4年度入学） メッリ・スリヤンティ・エスエヌ

新入生の皆さん、入学おめでとうございます！私はインドネシアのベンクル州から来た留学生のメッリです。ベンクルはスマトラ島にある小さな州です。私はベンクル大学のアグリビジネス学科で講師として働いていましたが、今は鳥取大学大学院連合農学研究科の博士課程後期に在籍しています。

インドネシアで講師をしていた頃から、海外で研究をすることが私の夢でした。インドネシアで修士課程を修了したときには、日本で博士号を取得することを考えていました。なぜ日本だったのでしょうか？なぜなら、日本は技術や農業の面で進んでいるからです。日本の科学者が興味深い農学研究を行っていたので、もっと知りたいと思うようになりました。科学の進歩がどのように世界を変えていくのかを肌で感じ、最新の研究に参加し、最高の教授陣からアドバイスを受けたと考えたのです。そして、鳥取大学の先生と出会い、私を学生として受け入れてくれることになったことで、今の私があるわけです。

私が留学生として新しい環境に適応するためには、手助けが必要です。また、日本語を流暢に話せるようになるには、まだまだ時間がかかりそうな状況です。しかし幸運にも、鳥取大学で多くの親切な人々に出会うことができます。職員の人たち、先生、そして日本人の友達はいつも喜んで私を応援し、助けてくれます。バスや電車に乗る時でさえ、親切に挨拶してくれる地域の人によく会います。私はここで快適に研究に取り組むことができます。街は平和で、研究に集中する環境が整っています。鳥取県は農業が盛んで、心躍るような美しい風景が魅力です。この街には自然の穏やかさがあり、生活や研究を楽しむことができます。数ヶ月前から、私の家族も鳥取で一緒に暮らすようになりました。私を感じている幸せを、家族にも感じてほしいと思っています。そして新入生のみなさんにも、それを感じてほしいです。鳥取大学へようこそ。キャンパスライフを一緒に楽しみましょう。

Studying here is one of the most beautiful things in my life

Congratulations to all the new students! My name is Melli, and I am an international student from Bengkulu, Indonesia. Bengkulu is a small province in Sumatra Island. I used to work as a lecturer in Bengkulu University's Agribusiness Department. Now, I am studying in a PhD program at The United Graduate School of Agricultural Sciences (UGSAS), Tottori University.

Since I was a lecturer, studying abroad has been my dream. When I finished my master's degree, I thought about getting a PhD in Japan. Why? Because Japan is advanced in technology and agriculture. Japanese scientists have conducted interesting agricultural research, and I was keen to know more. I wanted to see how scientific progress changes the world firsthand, participate in the latest research, and get advice from the best professors. Then I met a professor at Tottori University who accepted me as his student. And this is where I am now.

As an international student, I need help adapting to the new environment. What's more, I still need more time before becoming fluent in speaking Japanese. But I am fortunate to meet many good and kind people at Tottori University. The staff, professors, and Japanese friends are always happy to support and help me. Even on the bus or train, I often meet friendly locals who greet me. I am comfortable studying here. This city is peaceful, and its environment helps me to focus on my research. Tottori Prefecture has a thriving agricultural industry with an exciting and inspiringly beautiful landscape. It has a natural serenity, so it is fun to live and study in this city. Several months ago, I brought my family to live in Tottori. I want my family to feel the happiness I feel. And I hope you feel it too. Welcome to Tottori University! Let's enjoy our campus life together.



穏やかに健やかに

保健管理センター所長 みしま 三島 かつこ 香津子

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

保健管理センターは、一言で言えば大学の保健室です。看護師・医師・カウンセラーなど専門のスタッフが勤務し、皆さんの心と身体の健康をサポートしています。

- ①休養、怪我の処置、心身の相談・診察：体調が悪い時は安心して休めます（ベッドを備えた休養室があります）。怪我の応急処置を行なっています。悩みごとや心身の症状には、カウンセラーや看護師が相談に応じています。医師の診察も行っています。小さな悩みや症状でも、なかなか解決しないことやそのままでは悪化してしまうことがあります。気になる時は我慢せず保健管理センターに相談してみましょう（保健管理センターHPお問い合わせフォームから申し込みができます）。
- ②健康診断：健康診断を実施しています。問診内容・健診結果に基づいて、二次健診や相談・診察を行っています。健診を受けることで、皆さんが、体調の確認と振り返り・不調の気づきができることを心がけています。また、健康診断証明書は実習や就職活動で必要となります。定期健康診断は例年4月に実施されます。忘れずに受けましょう。
- ③日々の健康管理：保健管理センターには、自動身長体重計・InBody（体組成計）・血圧計・視力計が設置されており、自由に使用できます。食事・運動・飲酒（アルコールパッチテスト等）等の生活習慣や、メンタルヘルスケア・コミュニケーションスキルトレーニング等について学んだり実践する機会も設けています。日々の健康管理に役立ててください。
- ④感染予防：新型コロナウイルス感染症等に対し、感染拡大を防ぎ、皆さんが安心して大学生活を過ごせるよう活動しています。保健所や医療機関と連携して対応することもあります。

その他、保健管理センターには健康に関するリーフレットや様々なジャンルの図書があります。HPでは健康情報をわかりやすく発信しています。在学中の保健管理センターの利用は①②③④含め全て無料です。ぜひ活用してください（鳥取大学には、他にも、修学に係る配慮等に関することは学生支援センター、就職活動についてはキャリアセンターなど、複数の相談窓口があります）。

この3年間で私達の生活は大きく変化し、去年は国内外で様々な出来事がありました。これからも変化は続き、私達が予測できないことが待ち受けているかもしれません。けれども、どのような状況でも、鳥取大学に入学した皆さん一人一人が、穏やかに健やかに学生生活を過ごせるよう、保健管理センタースタッフ一同フォロー・サポートしていきたいと考えています。



新生活を丸ごと楽しんで

学生支援センター長 後藤 知伸

入学おめでとうございます。住まいや周りの人達がこれまでと変わった人も多いことでしょう。新しい環境で異なった価値観に遭遇するのも、大学生活の醍醐味です。社会に飛び立つまでの数年間、多くのことを見聞して、自分とは何か、何がしたいか、新しいあなた自身も発見することになるものと思います。はちきれそうな期待、希望、不安が混ぜこぜになった新生活を、思い切り楽しみましょう。

他人と自分の価値観が折り合わない、あるいは自分の価値観に自身が合致していないと、悩むときもあるでしょう。悩んだときには、行動してみましょう。逃げてみましょう。周りの人にも話をしてみましょう。学生支援センターでも、あなたの悩みを聞きます。なんでも相談して下さい。いつでもあなたが来るのを待っています。スタッフからのメッセージを下に載せます。

どうか、楽しみ悩み、笑って泣いて、あなたの大学生活がハッピーでありますように。

なんでも相談してみよう

新入生の皆様、入試本当にお疲れ様でした。そして、ご入学おめでとうございます。新生活の始まりということで、皆様にはたくさんの出来事が舞い込んでくるかと思えます。また、それは入学直後だけでなく、1年生、2年生、3年生、4年生と次々にやってきます。そのほとんどがワクワクする出来事であれば何よりです。ぜひ存分に楽しみながらチャレンジしてみてください。専門の学修や資格取得、新たな友人との出会い、部活・サークル・ボランティア活動、アルバイト、インターンシップなど様々な楽しみが皆様を待っています。

一方で、苦手だな、やりたくないな、頑張ればできるけどなるべく避けたいなといった出来事も舞い込んでくるかもしれません。かの有名なインシュタインは暗記が苦手だったように、人間には誰にだって「できること」と「できないこと」があるようです。けれど、できないからといって、その人の尊さが変わるわけではありません。また、できないという悩みが、新たな発見の機会となることがたくさんあります。ただ、頭で分かっているけどどうしても悩んでしまうことがありますよね。私も同じです。

そんな時は、学生支援センターを覗いてみてください。学生支援センターでは、「履修登録がわからない」、「レポートってどうやって書いたらいいの?」などの学習の相談、「持病で授業を受けるのが大変」、「障害があって困っている」などの持病や障害の相談、「気分の波があって辛い」、「自分自身がわからない」などのメンタルの相談、「Wi-Fiが繋がらない」、「良いバイト先ってないですか」などの大学生活の相談など「なんでも相談」していただいてOKです。ぜひ少しでも悩んだら相談しに来てくださいね。新入生の皆様の大学生活の悩みを丸ごと支えられたら幸いです。皆様とお会いできる日を楽しみにしています。

(カウンセラー 山中智央)



学生支援センター

<http://www.st-support.adm.tottori-u.ac.jp/>

こんな人はいませんか？

友人や先輩、先生との関係がうまくいっていない、自分に自信が持てない、修学意欲がわかず無気力
イライラする、不安を感じる、怒りっぽい、集中できない、
教室でいつも一人、しばらく授業に出ていない（姿を見ない）
アパートや学外での勧誘、アルバイト、ネット利用のトラブル…

自分のこと、クラスやサークルの友人のことについて、どんな相談も受け付けます。

ひとりで悩まず鳥大生サポート窓口へ…

鳥大生サポート窓口

(いずれも相談の秘密は厳守されます)

1. 学生相談員

各学部に教職員の相談員がいます。所属学部以外の相談員も相談に応じます。

2. なんでも相談、健康相談

鳥取、米子両地区で相談専門窓口があります。

なんでも相談は、学生支援センターで学生生活におけるあらゆる疑問や悩みや困っていることを聞いて、より適切な解決方法のアドバイスや相談先（学内外の関係者）を紹介しています。「身近な人には相談しづらい」「気がかりなことがある」「何となく話をしてみたい」といった場合にも、気軽にご利用ください。

健康相談は、保健管理センターで、身体・精神面の健康上の問題についての悩み・相談に対し医師や臨床心理士によるカウンセリングが受けられます。原則として予約制ですので、事前に予約をお願いします。

鳥取地区

なんでも相談（学生支援センター） TEL 0857-31-5794（直通 平日のみ 8:30-17:15）

鳥取大学保健管理センター TEL 0857-31-5065（直通 平日のみ 8:30-17:00）

米子地区

なんでも相談（学務課学生係） TEL 0859-38-7100（直通 平日のみ 8:30-17:00）

鳥取大学保健管理センター（米子分室） TEL 0859-38-6495（直通 平日のみ 8:30-17:00）

〔鳥取大学学生用緊急連絡先QRコード〕

もしもの時のために登録を！

<http://www.tottori-u.ac.jp/secure/4043/4043.htm>



なんでも相談、健康相談の場所

【鳥取キャンパス】



● **なんでも相談
(学生支援センター)**

共通教育棟A棟2階
平日のみ
8時30分～17時15分
☎0857-31-5794 (直通)
✉st-support@adm.tottori-u.ac.jp

● **保健管理センター**

平日のみ
8時30分～17時00分
☎0857-31-5065 (直通)
✉hokekan@adm.tottori-u.ac.jp

【米子キャンパス】



● **なんでも相談
(学務課学生係)**

総合教育棟1階
平日のみ
8時30分～17時00分
☎0859-38-7100 (直通)
✉st-support@adm.tottori-u.ac.jp

● **保健管理センター
米子分室**

総合アレスコ棟(保健学科棟)3号館1階
平日のみ
8時30分～17時00分
☎0859-38-6495 (直通)
✉hokekan@adm.tottori-u.ac.jp

àγορά
【アゴラ】

令和5年4月 No.49 発行
鳥取大学教育支援・国際交流推進機構教養教育センター
〒680-8550 鳥取市湖山町南4丁目101番地
T E L 0857-31-5795 (学生部教育支援課)
F A X 0857-31-6762
E-mail st-soumu@ml.adm.tottori-u.ac.jp <https://www.tottori-u.ac.jp/2355.htm>

àγορά (agora, アゴラ) とはギリシア語で「人の集まり」「人の集まる場所」「広場」「市場」を意味します。
この教養教育センター広報誌は、全学の学生に共通に関わること (=全学共通の教養教育) の広場となることを願って、「アゴラ」という名称が採られました。